

特集「樽前 arty + が観た Still Living

～門馬羊次編」

美術家・藤沢レオの個展「Still Living」が苫小牧市立美術博物館で開かれています。藤沢にとって過去最大規模の個展であり、作家として実像を伝える貴重な展示です。藤沢が中心となり、美術展や教育現場でのワークショップを手掛けてきたNPO法人樽前arty+のメンバーが、個展を鑑賞し、それぞれの思いを随時、綴っていきます。初回は樽前arty+代表理事の門馬羊次。個展は12月2日まで。

アート作品の鑑賞の仕方に正解なんてないだろう。造形や描写が「きれい」とか「すごい」とか「面白い」とか直感的に受け止めることは大切だし、アートに詳しい人なら、作家や表現手法の文脈に考察を深めながら理解していくのだろう。

私が藤沢レオと知り合った10年前、芸術への知識が乏しいので、よく作品の意図について質問していた。「なんで、なんで」と。でも、付き合いが長くなるにつれ、聞かなくなった。なんでだろう。ただ単に気恥ずかしいのかな。アートを含むあらゆる表現は、自己の内面をさらけ出す行為でもある。付き合いが深くなった人の内面に改めて触れることに、ためらいがあったのかもしれない。兄の恋愛話を聞くような。例えが合っているだろうか。。

だから、苫小牧市立美術博物館での個展は、新鮮だった。数年前から本人が作品に頻繁に用いている蛍光ピンクや青という色味にどんな意味があるのかを初めて知った。ギャラリーでの個展と違い、公立美術館では大規模な作品が連続して展示されていたことで、作家としてのスケールを実感できた。

エントランスやラウンジを展示会場に変え、陽光が差し込む中庭を闇に変えて作品を際立たせ、屋外の壁面には巨大な柱を立てかけた。美術館の空間が変容した。作品を鑑賞するための「場」の概念が崩されることが心地よかった。場の変化に気付いた時、当たり前のことだが、その場にいる自覚が生まれた。

藤沢レオは近年、「場の彫刻」というインスタレーションに取り組んでいる。今回の個展の柱でもある。場を創る。そして、その場に人がどう介在するのか。作家として視覚的な理解を伴う作品で、その問いかけをしているのだろうが、私は藤沢レオという人間の活動にこそ、「場の彫刻」を実感している。

藤沢レオがアトリエを構える苫小牧市樽前。地域の中心にある樽前小学校を会場に、藤沢レオが所属するNPO法人樽前arty+は、何度も美術展を開催してきた。学校を展示会場にしてしまうのも「場の彫刻」だろう。だが、それ以前に、のどかな地域に多くの方が鑑賞に来るため、藤沢やメンバーが住民に麦茶を配りながらあいさつに回る。小学校の運動会にも欠かさず参加するし、学校では「レオ君」と呼ばれ、児童たちに囲まれて一緒に遊んでいる。彼にとっては当たり前の行為なのだろうが、それが場を創ることにつながり、関わる人にとって意識的に、無意識的に変化が生まれる。

「なんで、なんで」と作品の意図を問いかけていた私が藤沢の創る場に関わることで、勝手にこんな事を考えるようになった。私も意識的に、無意識的に変化してきた一人なのだと思う。

藤沢レオ

Still Living

スタイル・リビング

2018.10.6 sat - 12.2 sun 苫小牧市美術博物館

主催：苫小牧市美術博物館 共催：公益財団法人北海道文化財団 協力：NPO法人樽前artyプラス、株式会社ヨシダ、鴻野建設株式会社、株式会社山脇建築構造設計
後援：北海道、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星、北海道新幹線 nittan 地域戦略会議

それでもなお、生きられる。

— 展覧会情報 —

主催：苫小牧市美術博物館

共催：公益財団法人北海道文化財団

協力：NPO法人樽前artyプラス、株式会社ヨシダ、鴻野建設株式会社、
株式会社山脇建築構造設計

後援：北海道、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星、
北海道新幹線×nittan地域戦略会議

会期：2018年10月6日（土） - 12月2日（日）

開館時間：9:30～17:00（入場は16:30まで）※10月13日（土）は20:00まで

休館日：月曜日 ※10月8日（月）は開館、10月9日（火）は休館

会場：苫小牧市美術博物館（苫小牧市末広町3丁目9番7号）

観覧料：一般300（240）円、高大生200（140）円、中学生以下無料

※（ ）内は10名以上の団体料金 ※免除規定がありますのでお問い合わせください。

※年間観覧券でもご覧いただけます。 ※博物館常設展もご覧いただけます。

